

花と緑の銀行だより

218号 2021.1



「ひまわり畑開場式」氷見市柳田 2020.8.1

目次

- ・ 花と緑の提言 みどりあふれる万葉のふるさとを目指して（高岡支店）・・・ 2
- ・ 技術講座 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン イソギク（職藝学院 渡邊美保子）・・・ 3
- ・ 緑づくりコーナー 庭木に利用する樹種の特徴と管理 ウメ（樹木医 西村正史）・・・ 4
- ・ 花壇審査を終えて～ちょっと気になる！～（一般花壇審査委員長 山本良孝）・・・ 5
- ・ ステップアップ研修に参加して（高岡支店 太田地方銀行 中山重雄）・・・ 6
- ・ この人あり 「花と緑のふれあいの場」の実現に向けて（氷見支店 窪地方銀行 田中賢次）・・・ 7
- ・ 報告・お知らせ 全国花のまちづくりコンクール入賞など・・・ 7



みどりあふれる万葉のふるさとを目指して

花と緑の銀行 高岡支店長
高岡市長 高橋 正 樹

新年明けましておめでとうございます。

皆様お健やかに新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

去年は、長梅雨の後に猛暑が続き、お世話をしていたでいる頭取やグリーンキーパーを始めとした皆様には大変なご苦労があったと存じます。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行いながら活動を継続していただいたことには、感謝の言葉しかございません。

さて、高岡市の歴史は古く、8世紀に越中の国府が置かれて以来、越中文化の発祥の地といわれ、国守として赴任した万葉集の代表的歌人である大伴家持が220首余りの秀歌を残しています。高岡市には、これらの歌に詠まれた水と緑が織りなす風光明媚な自然や景観、長い歴史の中で培われた薫り高い伝統と文化が息づいています。高岡市では、このような歴史的背景を踏まえ、平成24年に緑化の推進に関する総合的な計画である「高岡市グリーンプラン」を策定し、「緑化の推進に携わる人づくり」、「万葉集に詠まれた植物の普及の推進」に重点を置いて、「みどりあふれる万葉のふるさと」の実現を目指しております。令和3年度は計画の最終年度であり、各施策の成果について再検討し、令和4年度から開始する新計画の準備を進めてまいります。

現在、施策の一つである「緑化の推進に携わる人づくり」として、花と緑の銀行高岡支店では34地方銀行358名の頭取・グリーンキーパーの皆様の他、高岡市花いっぱい連盟会員の皆様、自治会、企業、保育園、幼稚園、小中学校、福祉施設等において、地域緑化・民地緑化に積極的に取り組んでいただいております。

毎年、高岡市花いっぱい連盟では、花壇コンクール及び町並みフラワーラインコンクールを開催しており、昨年も地域性を活かした花壇や工夫を凝らしたフラワーライン等、31団体の参加がありました。このコンクールで上位に入賞した花壇等を県の花のまちづくりコンクールへ推薦し、その結果、7団体が受賞しました。中でも、学校花壇の部で最優秀賞を受賞しました成美小学校は、「新型コロナウイルスにも負けず、明るく元気に、そして笑顔になる花壇をつくらう」をテーマに色彩豊かな花壇づくりをされました。この学校の花壇づくりの伝統は長く、代々受け継がれる花の育成技術と愛情には感嘆するばかりです。



写真1 成美小学校の生徒が花壇のお世話をしている姿

その他、高岡おとぎの森公園では、バラ園の一部を高岡バラ会の皆様に、市民花壇やハーブ園を有志の市民ボランティアの皆様に管理していただいております。市民の皆様と一緒に作っていく公園にぜひ皆様、足をお運びいただけると幸いです。

また、「万葉集に詠まれた植物の普及の推進」として、特に市の花「かたかご」の普及に努めています。市内の小中学校、高岡古城公園、水道つつじ公園、二上山、伏木ふれあいの杜に毎年、植栽をしております。かたかごは育成が難しい植物ではありますが、市民の皆様のご協力のもと、長年、継続することができ、春には可憐な花をご覧いただくことができます。



写真2 おとぎの森公園 森のふれあい館・バラ園（左）
古城公園のかたかご群生（右）

これからも、花と緑をとおして、住民同士の交流、子どもたちの情操教育、来訪客へのおもてなし、そして、ふるさとへの愛着につながることを心から願っております。

今後とも、市民の皆様方には地域の緑化活動に一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

～ 36 イソギク ～

職藝学院

教授 渡 邊 美保子

秋から冬にかけての宿根草ガーデンで、ひときわ目立つのがイソギクです。枯れ姿ばかりの宿根草の庭で、その場所だけ春が来たかのように色鮮やかだからです。イソギクは日本の野生菊の一種で、海岸に自生していることから磯菊という名がつけられたとのこと。10月下旬から12月にかけて、40cmほどの茎の先に黄色の小花をたくさん咲かせます。イソギクの葉の色は表と裏で違います。表は青みがかった灰色で裏は白です。葉に白い縁取りがあるのは裏の葉が少しだけ表に反り返っているためです。黄色の花は、この美しい葉にぐるりと囲まれて咲きます(写真1)。



写真1 イソギクの花。筒状の小花が集合して外側から開花する。11月中旬

10月中旬になると、イソギクの茎の先に透明な膜に包まれた5ミリ程度の丸いつぼみが房状に付きます。11月初旬には、その透明な膜の中から直径1ミリにも満たない黄色のつぼみの集団が現れます。このつぼみたちが外側から順番に開花するため、花を觀賞できる期間がとても長いのです。満開になるのは11月中旬頃です。その後、12月中旬にかけて、花は黄色から黄土色に変化してゆきます。また、葉は年末からお正月にかけて紅葉します(写真2)。冬の姿に変化したイソギクを見ると、花壇に色があるだけでもありがたい気持ちになります。2月になると花茎の葉はカラカラに枯れて、ぼろ雑巾がぶら下がっているような姿になりますが、枯れた茎の根元の周りには、おはじきをばらまいたみたいに青緑色の新芽が所々に顔を出します(写真3)。この新芽が成長して秋に再び花を咲かせます。

イソギクは、ひと冬越すたびに株全体が大きくなってゆきます。地面を掘ってみると咲き終わった花茎の根元から地下茎が伸びているのが分かります。この

地下茎が伸びてその先に新芽を付けて陣地を広げてゆきます。イソギクの広がり方はとても遠慮深いほうです。隣に植えられている宿根草の中にまで、ずけずけと入り込むことはありません。できるだけ迷惑がかからないように空いている場所に地下茎を伸ばしながら成長しているようです。

イソギクは、強い日差しと乾燥している所を好みます。庭園では、一日中日が当たり、水はけの良い場所を選びましょう。お手入れは、花茎が枯れる2月頃に根元から刈り込む程度です。花茎は放射状に広がるため、地面をこんもりと覆ってくれますので除草の手間もかかりません。黄色の花と白い縁取りのある青緑色の葉が互いを引き立てているので、花壇にイソギクが一株あるだけで、とても存在感があります。組み合わせは、イソギクと同じ環境を好むゲンペイコギクなどを隣に植えると良いでしょう。



写真2 紅葉したイソギクの葉。花は12月末には咲き終わる。1月初旬



写真3 親株の根元から伸びた地下茎の先に新芽が出る。3月中旬

庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ ウメ ～

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村 正 史

ウメとサクラ、日本人にとっては最も馴染みの深い樹木であると思います。サクラについては紹介しましたので、今回はウメについて紹介します。

1 特徴

ウメはバラ科サクラ属の落葉高木で、中国が原産地です。日本には奈良時代の遣隋使または遣唐使が、中国から持ち帰ったといわれています。花を観賞し、実も収穫できる優れたもので、栽培もそれほど難しくないので、全国至るところで栽培されており、庭木としても植栽されています。

花は、葉の展開に先駆けて 1 ～ 3 月に咲きます。その後、枝が伸びるとともに葉も開いていきます。花が散ると、受粉していれば実がだんだんと大きくなり、6 ～ 7 月頃には収穫できます。翌年の花となる花芽は、7 ～ 8 月頃になると短枝に形成され、長枝にはほとんどつきません。自家受粉では結実しにくいのですが、結実する品種もあります。

花を観賞するほか、果実を梅干しや梅酒、梅酢、ジャムなどにして食用とします。

300種以上の品種があり、野梅（やばい）系、豊後（ぶんご）系、緋梅（ひばい）系の 3 系統に分類されています。梅の実を採るのは主に豊後系です。

なお、富山県中央植物園のサクラ・ウメ園内には、68品種153本のウメの木があります。1 月～ 3 月まで鑑賞できます。写真 1, 2 はその一例です。

2 維持管理

日当たりが良く、通気性と水はけの良い、肥沃な土壌を好みます。日陰で湿気が多い場所では、徒長枝が多くなり、花芽もつきにくくなるので避けます。

剪定は落葉後から初冬に行います。長枝では、この時期に基部を 3 分の 1 から半分を残しておくと、翌年には残した基部から新しい短枝が発生し、葉腋に花芽をつけます。花が咲き終わった段階で葉芽が展開する前でも可能です。それ以降の剪定は葉量の減少となり、ウメが葉量を増やそうとするので、花芽の形成に影響します。

夏季剪定は、花芽ができる短い枝に十分な光と

通風を与えるために、長枝を切り詰めたり、不要な枝を間引いたりする程度とします。

アブラムシ類やアメリカシロヒトリがよく発生します。前者では浸透移行性殺虫剤（マツグリーン液剤 2、ダイリーグ粒剤、イマージ液剤等）で、後者ではトアロー水和剤 CT 等の BT 水和剤、スミチオン乳剤、トレボン乳剤等で対応してください。

なお、2009 年に東京都青梅市のウメがウメ輪紋ウイルス（プラムポックスウイルス）という植物ウイルスに感染していることが判明し、神奈川県、岐阜県、愛知県、大阪府、兵庫県でも発生が確認されています。人体に害はありませんが、葉や果実に斑紋などの症状が出て商品価値が無くなってしまうため、恐れられています。本県での発生は確認されていません。



写真 1 ウメの園芸品種
左：カゴシマベニ（鹿児島紅）2014.3.24撮影
右：クロダ（黒田）2013.3.26撮影



写真 2 ウメの園芸品種
左：ツギカゲ（月影）2014.3.11撮影
右：ハクボタン（白牡丹）2011.3.13撮影

花壇審査を終えて ～ちょっと気になる！～

一般花壇の部 審査委員長 山本良孝

今年の花壇コンクールの中で、これまでの花のまちづくりでは見られなかった、素敵な感動や時代の変化など、さらにはちょっと気になったことを書いてみました。

1 散策通路のあれこれ

(1) 感動の砂紋

黒瓦で土留めされた花壇の周囲に、白い小石を敷き詰め規則正しい「砂紋」が敷かれていました。

まさに、枯山水の石庭を思わせる厳かなおもてなしに感動しました。つやのある瓦の黒と小石の白のコントラストが鮮やかで、審査とは言え、足を踏み入れて良いかどうか迷うほどの素晴らしさでした。

厳かな空間美に心が満たされました。



(2) 松ぼっくりの散策路

花壇内の散策路近くで集めた松ぼっくりがびっしりと敷き詰められていました。

思わず歩いてみたくなり、一步踏み込むと、ころころとした丸みを感じられ、柔らかな雰囲気になりました。乾いた時には「ぱきっ! ぱきっ!」と素敵な音がするそうです。

子供達も興味津々で松ぼっくりの散策路を歩き、たくさんの花々を楽しんでくれることと思います。



(3) 大丈夫かな? 防草シート

花壇の中央に防草シートを張った管理通路が造られていました。

雑草防除にはとても便利ですが、デザインや景観面ではいかがでしょうか? せっかくきれいな花壇が作られているのに、ちょっと残念な気がします。

県内の花壇では、管理通路にもバーク堆肥を敷き、雑草の発生を抑えたり、土づくりに活用する事例もたくさんあります。

花壇の通路や周辺全体にも気を配る一工夫を期待します。



2 安全性を確保した上での花壇づくり

(1) 花壇周辺の水路に注意!

花壇の前を流れる水路の上に、鉄筋を頑丈に組んだ柵を置き、さらに足場板を渡した、安全な作業路が造られていました。

全国的に用水路での事故が増加しており、特に、本県での安全確保が重要となっています。また、この花壇が設置されている地域は高低差も大きく、さらに、夏の時期は水量も多く、一層危険が高まっています。

花壇作業をする人にとっても、また、花を楽しむ人にとっても、安全確保がまず大切です。



(2) いよいよ花壇にもイノシシ対策

山間地に設置された花壇に、昨年秋にイノシシが侵入したと聞きました。被害を防止するため、花壇の周りに厳重に電気柵が設置されていました。

審査の際には電気を切って柵を降ろし、中に入らせてもらいました。元気に咲いている花々を見て、被害が少なかったことにほっとしました。

これからも、管理する人はもちろん、花壇にも被害が無いことを祈っています。





ステップアップ研修に参加して ～ 素の自分に帰り、学生時代のような感覚に ～

花と緑の銀行 高岡支店

太田地方銀行グリーンキーパー 中山 重雄

令和2年度頭取・グリーンキーパー ステップアップ研修を受講させていただきました。県中央植物園において4月から11月までの期間が予定されていましたが、新型コロナウイルス禍のため、6月に入ってから、ようやく開講となり、花壇実習を主体として基礎知識と手法を高めようと県内各地から総勢19名が集まりました。

東京オリンピックが延期されるなど、まだまだ新型コロナウイルスに対して強く不安が残る中でのスタートとなり、①マスク着用、②検温、手指消毒、③3密防止など、感染防止に万全を期しての研修となりました。

「生涯学習」という言葉が聞かれて久しい昨今ですが、研修の皆さんの「取り組む姿勢、学ぶことに対する意欲」に見習う点が多々ありました。7月は雨の日が多く、8月は暑い日が続きましたが、スタッフの皆さんの協力のもと、なんとか夏を乗り切った感じです。9月に入ると天候にも恵まれ、——研修の成果も出てきたのか——花壇も立派になってきました。10月にはコロナに注意しながら長野県大町市の方面へ現地視察に出かけました。

この6か月間は、素の自分に帰り、40余年前の学生時代のような感覚で、学ぶ楽しさを存分に味わうことができました。様々な作業を教え合い、助け合い、また、島先生からはタイムリーなアドバイスを受け、チームでミニ花壇づくりの体験を通して達成感を味わい、楽しい経験をさせていただきました。今まで知ることのなかった新しいことを体験し、さわやかな汗を一緒に流したと思います。

季節に応じた植物との触れ合いを体験し、科学的裏付けのもとでの植物たちの特性を学び、最新の植物の増殖法をかじったりと、まさしく目からウロコの日々でした。また、花や野菜の様子を観て、病気に対応できる農薬や不足している肥料のことも学びました。花づくりの第一歩は花壇の土壌づくりからと、有機物の施用の大切さ、土壌を中性にするためのpH測定も行いました。

植物とふれ合えるのは1年ごとです。毎年、変化して同じことはなく、毎年、新しい出会いです。これからは地域にかえり、園芸ボランティアや家庭で園芸を楽しむしたいと思います。私は年齢的には新しいことにチャレンジすることには抵抗感もありますが、果敢に挑戦していく姿を地域の人に見せ、先頭になって汗を流そうと思います。

この研修で学んだことを地域の方々にもお伝えして、花と緑の活動がもっと盛んになる足掛かりとなり、いつまでも向上心を失わず元気で活動できればと願っています。優しく指導していただいた先生方やスタッフの皆さん、また個性溢れるクラスメイトの皆さんと出会い、楽しく研修を終えることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。



写真1 花壇実習の日々
上段より：施肥・定植実習 6/3、メンテナンス実習 8/5
研修仲間たち 10/7

令和3年度 頭取・グリーンキーパー ステップアップ研修の受講募集は、3月上旬より予定しています。受講対象は、未受講の頭取・グリーンキーパーさんです。各支店(市町村担当課)までお問い合わせ下さい。



「花と緑のふれあいの場」の実現に向けて

花と緑の銀行 氷見支店

窪地方銀行 グリーンキーパー 田中 賢次

私は、窪地方銀行のグリーンキーパーであるとともに、氷見市柳田区長としても活動しています。地域の緑花活動に参加したきっかけは、区長として環境保全活動に関わったことでした。

当時、遊休農地の劣悪状態に対して、地域住民から大きな批判の声もあり、環境保全を目的としてひまわり畑を造り始めました。ある時、氷見市に移住してきた方から「このひまわりは何かの形をイメージして植えたんですか？」と声を掛けられました。それからひまわり畑で話をする機会が増え「この活動は、地域のコミュニティ力の向上の場とすることができるのではないかと考えるようになりました。

区長として地域の活性化につながることを考えることが多く、「Social well being」という言葉を意識するようになりました。WHO憲章では『健康とは、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、全てが満たされた状態』とされており、現代の目指すべき地域社会の姿なのではないかと思いました。肉体的には、日々の運動などや医療機関等で健康を保てますが、精神的、社会的に健康であることは、人とのコミュニケーションにより保てる部分が多いのではないかと考え、先の経験を活かし地域のコミュニティ力の向上を図る場として花壇づくりを始め、現在に至っています。

しかし、日々の実践活動にも関わらず、アドバイス本の通りに花が咲くことはありませんでした。市が行う花壇コンクールに出しては、審査員にアドバイスを求め、実践することを繰り返してきました。そんな時、ある審査員の方から「田中さん、1年や2年で思い通りの花壇をつくれることはありません。急がず、毎年の積み重ねで花壇づくりの技術は身につくのですよ」と言われ、経験による積み重ねが花壇づくりでは一番大事であることを学びました。

花壇づくりを始めてから、通りすがりの方から話しかけられることが多くなりました。私が目指していた「Social well being」というのは、花壇の話題を中心としたコミュニケーションを通して、お互いの充実した社会活動の一コマを形成し、心の充実を図ることです。花壇づくりでは今も苦戦していますが、確かに花壇が私と地域の方々をつなげてくれたのです。

花壇づくりが私の生きがいの一つとなり、将来的には、柳田の海岸から布尾山古墳までの区域を花でつなげたいと願っています。これからも、地域の方々と一緒に地域づくり、花壇づくりを続けていきたいと思っています。

(表紙写真「ひまわり畑開場式」もご覧ください)

報告コーナー

「全国花のまちづくりコンクール」で入賞

- ・第30回(2020年)全国花のまちづくりコンクールにおいて、富山県から次の皆さんが受賞・入賞されました。コロナ禍の中での応募に敬意を表します。引き続き、来年度のコンクールへのトライ、そして各地域での花と緑の推進役として、ご尽力をお願いします。
- ・応募総数：1,690件、受賞：大賞 5 件、優秀賞11件、奨励賞14件など101件



寺崎啓乃(富山市願海寺)

賞	受賞者
花のまちづくり 奨励賞	個人部門 ・寺崎啓乃(富山市) ・宮野裕子(砺波市)
入選	団体部門 ・船嶺小学校(富山市) ・立野栄町自治会 花づくり会(高岡市) ・醍醐公民館 花と緑の推進部会(高岡市) 個人部門 ・須川伸夫(南砺市)



宮野裕子(砺波市高波)

富山県花と緑の祭典2020「第48回花と緑の大会」を開催

- ・「第48回花と緑の大会」を10月14日(水)、富山県民会館において開催しました。参加者を前年の50%未満(会場定員の1/3)とするなど、新型コロナウイルスの感染拡大予防に努めながらの開催となりました。
- ・大会では、花と緑の功労者表彰(知事表彰 5個人1団体、理事長表彰 28個人4団体)、県花と緑のコンクール入賞者表彰(9個人24団体)が行われました。また、コンクール入賞作品・花壇写真の展示も同時に行いました。
- ・花と緑の講演会では、二橋浩司氏(浜松市 花と緑のまち推進グループ長)により、「花と緑のまち・浜松」の企業による街中花壇の取り組みなど、多彩な取り組み、仕掛けについて紹介がありました。



お知らせコーナー (1月～3月の主なイベント)

「花とみどり・ふれあいフェア」

1 日 時 令和3年2月27日(土) 10:30～17:00 2月28日(日) 10:00～16:00

2 場 所 フューチャーシティ ファボーレ(富山市婦中町下轡田165-1)

3 主な内容

(1)花と緑の展示コーナー

- ・とやまの花品評会
- ・コンテナガーデン・わたしの寄せ植え
- ・花と緑のコンクール入賞作品展 など

(2)花と緑の体験コーナー

- ・暮らしに花を飾る体験教室
- 生け花、花束づくり、寄せ植え など

(3)その他

- ・花の種 無料貸し出しコーナー など

「わたしの寄せ植え」出典募集中!

- ・展示期間 2月23日(火)～2月28日(日)
- ・展示場所 「花とみどり・ふれあいフェア」会場
- ・申し込み受付 1月25日(月)まで必着
- ・入賞者へ賞状・副賞を授与します。
- *詳細・申込書は、銀行HPをご覧ください。
(お問い合わせ・お申し込みは、銀行・緑花推進部まで)

富山県中央植物園

○第8回クリスマスローズ展 2月19日(金)～21日(日)

*栽培相談会(当日受付):20日(土)・21日(日) 10:30～11:00 14:00～14:30

○第49回富山県蘭まつり大会 3月5日(金)～7日(日)

*栽培講習会(当日受付):6日(土)・7日(日) 10:30～12:00, 14:00～15:30

○第17回雪割草富山県大会 3月12日(金)～14日(日)

*栽培講習会(当日受付):13日(土)・14日(日) 14:00～15:30

(詳細はHPをご覧ください。お問い合わせは富山県中央植物園へ。参加には入園料が必要です。)

県民公園 頼成の森

○竹スキーづくり教室 1月31日(日) 9:30～12:00 定員:10名 参加費:500円

○守り人と歩く頼成の森 2月7日(日) 9:30～12:00 定員:15名 参加費:無料

(詳細はHPをご覧ください。お申し込み・お問い合わせは県民公園 頼成の森へ。)

※ お願い!!

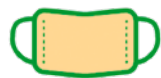
○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各行事の中止や内容の変更を行う場合があります。

ご理解の上、各行事の詳細はその都度、担当部署へお問い合わせ下さい。

○「3密回避やマスク着用、手洗い・消毒」に努め、新型コロナウイルスを乗り越えましょう!



三密の回避



マスクの着用



手洗い
手指衛生の徹底

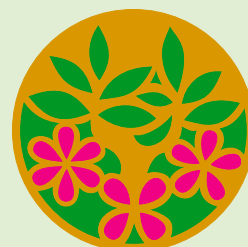


換気の徹底

編集発行 公益財団法人 花と緑の銀行
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-2425 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-4187 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/>

県民公園頼成の森
〒939-1431 砺波市頼成156
TEL 0763-37-1540 FAX 0763-37-1450
<https://www.bgtym.org/ranjyounomori/>



花と緑の銀行だより 218号

発行日 令和3年(2021年)1月
再生紙を使用しています。